

令和7年12月3日

## 令和7年度埼玉県社会福祉大会の実施結果について ともに支え合い明るい未来へ ～すべての人に健康と福祉を～

埼玉県の福祉の向上に功績のあった団体や個人の方々を表彰し、その功績をたたえました。

また、社会福祉の一層の増進を目指して、参加者一同の総意の下、「大会宣言」が採択されました。

**1 日 時** 令和7年11月20日（木）13：00～15：00

**2 会 場** 埼玉会館大ホール

### 3 概 要

（1）表彰	埼玉県知事表彰	個人	610名	85団体
	埼玉県社会福祉大会会長表彰	個人1,	305名	61団体
	埼玉県共同募金会会長表彰	個人	73名	51団体

#### （2）知事挨拶

我が国では大正9年に人口統計を取り始めて以来、47都道府県でただ一つ人口が減ったことがなかったのが、この埼玉県でありました。ところが令和4年春、初めて人口減少に転じ、そしてその後、国勢調査等にも表れているとおり人口減少・超少子高齢社会へと突入をいたしました。

労働生産人口が確実に減少する一方で、75歳以上の後期高齢者の方々の人口は、その増加のスピードを増しているところであります。

一方で、地域社会に目を向けてみますと、核家族、単身世帯、ライフスタイルの変化、さらには、地域のつながりが希薄化するなど、孤独・孤立の進展も大きな課題となっているところであります。

このような課題を抱える中、誰もが安心して暮らせる地域社会をつくるためには、地域住民の方々が世代や分野を超えて、互いに支え合う社会の構築が喫緊の課題となっております。

ここにお集まりの皆様におかれましては、それぞれのお立場で、地域や人々のきずなを強固に団結をし、様々な工夫を重ねながら地域の福祉をお支えいただいた方ばかりでございま

す。

本県出身の偉人であり、500以上の企業の創設に関わられた渋沢栄一翁は、社会福祉活動にも大変な足跡を残され、現在の全国社会福祉協議会の前身である中央慈善協会の初代の会長でありました。

渋沢栄一翁を始めとする先人の偉業に倣い、埼玉県もあらゆる人に居場所があり、活躍ができ、安心して暮らせる「日本一暮らしやすい埼玉県」の構築に向け、邁進していく所存でございます、皆様におかれましては引き続き、お力添えを賜りますよう心よりお願い申し上げます。

### （３）来賓祝辞【埼玉県議会議長 白土 幸仁 様】

福祉分野においても、それぞれの御地元で、課題が多様化していると思いますが、その多様化した課題を１つ１つ解決していただいている皆様には、本当に感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

私ども県議会におきましても、議員提案政策条例で、ケアラー支援条例やひきこもり支援に関する条例、そして、こども・若者基本条例も、作らせていただきました。

我々議員提案で可決をしている条例のほとんどが福祉に関連する条例でございます。やはり我々はまだ見ぬ困っている方々、声のない困っている方々にどうやって手を差し伸べていくのか。我々はいつもそれを課題として、議会活動をさせていただいているところでございます。

そして、そういった問題解決には、何より地域のコミュニティ、絆が重要でございます。日頃から様々なコミュニケーションをされている地域は非常に強い福祉の力を持っていると私は考えております。

そういった意味では、日々、地域の絆を醸成していただいている皆様に、これからも御活躍をいただきたいと存じます。

私ども県議会におきましても、皆様の活動を全力で応援をさせていただきます。そして何より、こういった大会を契機に、ますます埼玉県におきまして福祉が増進されることを御祈念申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。

### （４）大会宣言

今年は、団塊の世代が全て75歳以上となり、後期高齢者が大幅に増加する超高齢社会、いわゆる「2025年問題」の年です。介護や医療のニーズが増大するなど、大きな課題に直面しております。

また、日常生活では、長引く物価高騰の影響により、生活困窮等への対応が一層求められております。

このような状況の中、地域住民も含め、NPO・ボランティア団体、社会福祉法人、企業、相談支援機関、行政などの多様な主体が参画することで、人と人、人と地域資源が世代や分野を超えてつながり、誰もが地域で安心して暮らせる社会を目指していく必要があります。

私たちは、「『支え手』『受け手』の関係をを超えて、あらゆる人が地域を共に創り、一人ひとりが生き生きと暮らせる埼玉」の実現に取り組むことを決意し、ここに宣言します。

## 4 大会の様子

